



第 9 号
 平成31年 2 月 1 日
 発行
 小見川東地区まちづくり協議会

森山城 築城 800 年 記念講演盛会裏に

昨年11月24日に小見川市民センターで森山城築城800年記念講演を行いました。

森山城社は、建保6年(1218)に千葉常胤の六男東胤頼が飯田郷(下飯田・岡飯田地先)に築城、その後戦国末期に拡張工事が行われ、現在でも曲輪、空堀、土塁、土橋などが良好な状態で残る東地区の貴重な歴史的財産です。まちづくり協議会では、この「森山城址」を活かしたまちづくりを進めております。

今回の講演会で、森山城主「東氏」について、小見川出身の千葉氏研究家の鈴木佐氏と東氏が赴任した岐阜県郡上市大和町文化財保存会の副会長の金子徳彦氏を迎えて行いました。講演には、小見川地区以外からも大勢の方々が来場され、森山城・東氏への関心の深さ、また歴史的価値も改めて知ることができました。



【 講演の概要 】

下飯田原宿獅子舞(オープニング)



800年の歴史をもつ原宿の獅子舞

講演のオープニングに下飯田原宿の獅子舞が披露されました。原宿の獅子舞は、森山城築城の際のお祝いに奉納舞されたと伝わっています。今でも、毎年1月22日(現在は前後の日曜日)の御奉射の早朝、原宿の鎮守である星宮大神(東氏の守護神「妙見宮」)の前で初舞をし、家々を廻りお祓いの舞い(悪魔払い)を行い、直会の終盤には、その席で獅子舞が披露されています。

東胤頼とその末裔について(鈴木佐氏) 小見川の魅力

東氏、栗飯原氏、木内氏は鎌倉や京都で活躍をしている。鎌倉のお寺と直接関係するお寺がある。

鎌倉光明寺(然阿良忠)＝西音寺(下飯田)、浄福寺(下小堀)。鎌倉建長寺(蘭溪道隆の法孫)＝樹林寺(五郷内)、真福寺(分郷)。



千葉常胤

東胤頼の父で、源頼朝から「司馬の父」といわれ三浦義澄と共に鎌倉政権を支えた。千葉一族が鎌倉幕府から拝領した領地が全国各地にある。(東氏＝宮城県黒川、岐阜県郡上、木内氏＝淡路島、兵庫県但馬)

東氏三代について

胤頼(＝千葉六郎大夫)は森山城を築き、東氏を名乗った。東氏は、東庄(東庄、小見川東部)、三崎庄(海上、銚子)、木内庄、小見郷等小見川地域から銚子地域までを領した。

東氏(胤頼・重胤・胤行)は、将軍と親密な関係であり、文武両道で特に和歌に優れていた。

三代目胤行は、美濃山田庄を加領され美濃に移り、美濃東氏となった。

森山城の変遷



森山城址(奥仲城)

・別名「飯田城」ともいう。三代城主「胤行」の以後は泰行の系統(海上氏・木内氏)が在城?(詳細が不明)。

・室町中期に千葉氏分裂の立直しのため、美濃東氏の東常縁が森山城に在城、美濃の篠脇城が斎藤妙椿に押領されるが和歌のやり取りで返還され帰郷する。東常縁の帰郷後も東常縁の子「常綱」は須賀山城、「縁数」の子孫は森山城に居城?

・戦国後期 千葉昌胤の次男「胤富」が在城、胤富が千葉宗家を嗣いだ後は、原氏(森山原氏)が在城し、海上氏、石毛氏が在番している。

・豊臣秀吉による落城後は、徳川家康の家臣「青山成重」が入部し「下総飯田藩(1万石)」を立藩している。

東氏の末裔たち

・東北に千葉氏が多く東北千葉氏の系図には頼胤・胤頼を始祖とする家が存在。

・多古町東禅寺には、「胤頼夫妻」「直胤夫妻」「棟胤夫妻」の合同位牌がある。

・森山城が落城した時に東氏(勝繁)が鹿島神宮に逃れ當禰宜を継承。明治以降に東氏は鹿島神宮社家として奉仕している。

・木内胤直(小見五郎)＝鎌倉時代に宋(中国)に留学し一切経を日本にもたらし京都東山に「那蘭陀寺」を創建する。卜部(吉田)兼好と親交があり「徒然草」に記載されている。

・龍山徳見(香取郡の千葉氏<虫幡の一族?>)＝円覚寺・建長寺で修業し、元(中国)に留学し日本初の官寺兜卒寺住持となる。建仁寺・南禅寺・天龍寺住持となる。五山文学の先駆者

・慕喆龍攀(美濃東氏)＝建仁寺で「周建」(一休宗純)を教える。

終わりに

東一族の和歌の流れが残っている。(宮中歌会初めの撰者「伊藤栄次郎氏」「飯田秀真」「山之内俊一」)。

皇室も意識していた(秩父宮勢津子妃殿下が「東氏の郷「岡飯田」を訪ねたい」<逸話>)

美濃に来た東氏

「和歌の家柄・東氏の郷のまちづくり」

(金子徳彦氏)

昭和54年に、東氏の館庭園跡が発見され、その史跡を活かしたまちづくりを始める。

郡上東氏は、下総東氏3代目の胤行が郡上に赴任し、初代郡上東氏となった。

東氏の一族は和歌に優れ、勅撰和歌集に72首の歌が入選している。中でも東常縁は有名で、連歌師宗祇に古今伝授をし、「古今伝授の祖」と呼ばれている。



東氏の館跡庭園

多彩な催事

薪能・くるす桜、新春歌合せ、短歌大会 (NHK共催・吟行短歌大会)、連歌の興行、ゆきばた椿祭り、野外美術展 (短歌を題材とした造形美術展)、文楽の講演等の催しを行う。

文化から交流、そして産業

「東氏の歴史」と「古今伝授」という一般人に馴染みのない地域資源を解り易い形に料理

(例：古今伝授→古今和歌集→和歌→短歌)

し、歌に繋がる文化の基を持っている能や文楽あるいは芸術・美術などの作家とコラボレーションを図り、多くの皆さんに来ていただけるよう情報発信している。

以前は、スキー、キャンプ、釣りの観光客で年間に4万人程度であったが、今は1,100万人を超えている。また、昭和63年に第3セクター「郡上大和総合開発KK」を設立し、現在4事業所を運営しており、年間の売上は、10億円を超える。



道の駅 古今伝授の里やまと

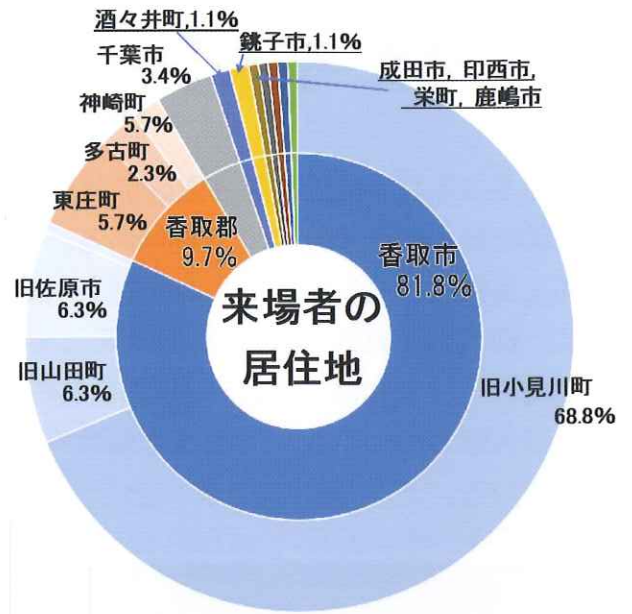
森山城800年記念講演

来場者アンケート集計

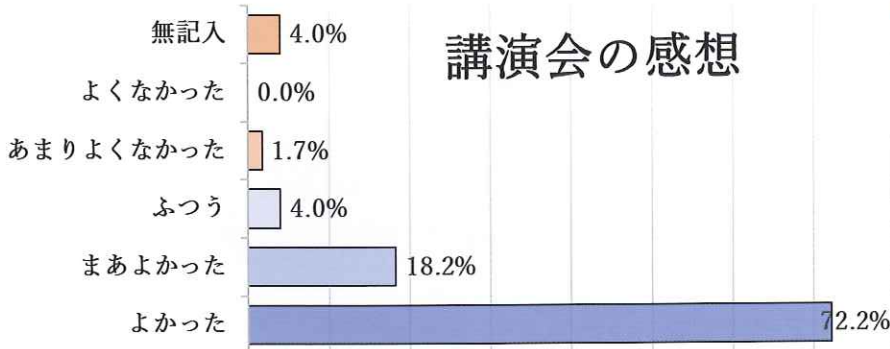
記念講演には、350人を超える大勢の方が来場され、半数の176人がアンケート調査にご協力をくださいました。

来場者の居住地を見ると、香取郡・市が9割（小見川7割）と地元が殆どですが、千葉市、酒々井町、銚子市等遠方からも来場しており、森山城、東氏への関心の深さがうかがえます。

講演の感想は、よかった、まあよかったが9割以上と好評でした。



講演会の感想



多かった主な感想

- ・地域の歴史に新しい発見があった。
- ・鎌倉時代に中国で活躍した人物がいたことに感激。

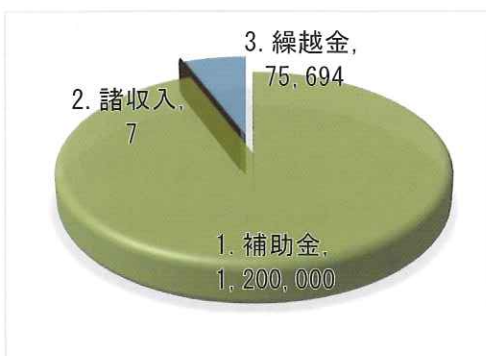
- ・森山城の話をもっと聞きたかった。
- ・秩父宮勢津子の話は興味をそそった。
- ・木内氏、海上氏の話も聞きたかった。
- ・地元を見る目（幅）が広がった。
- ・中高生にもこの歴史を聞いてほしかった。
- ・似た名前が多く難しかった。
- ・小見川が歴史上とても重要な地であることが分かった。
- ・獅子踊りよかった。歴史があるね！
- ・金子さんのまちづくりの話大変参考になった。

平成29年度小見川東地区まちづくり協議会一般会計決算

平成29年度小見川東地区まちづくり協議会一般会計決算は、収入総額が1,275,701円、支出総額が1,200,969円で、差し引き残額74,732円が平成30年度に繰り越されました。

主な支出は、道路愛護デー時の重機等の借り上げ(227千円)、森山城址環境整備の重機・研修バスの借上げ(94千円)、スポーツ交流事業の北原地新田多目的広場の整備関係(192千円)です。

歳入



歳出

